

阿南 ぶらりまち紀行

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!



各地の大名が覇権を争い、日本全土で戦いを繰り広げた群雄割拠の戦国期、現在の阿南市の礎を築いたといわれる武将、新開氏一族の歴史ドラマが今にみえる。

埋もれゆく歴史を掘り起こして地域の活性化につなげようと、昨年9月、富岡まちづくり協議会活動の一環として「新開遠江守隊」が結成された。市内外から集まった15人の有志が、散逸した歴史資料を収集しながら、ボランティアガイドの育成や歴史・観光マップ作りに取り組んでいる。郷土史研究グループ等とも連携。戦国武将ゆかりの地を巡る「阿南おもしろ戦国歴史観光ガイド」の実施に向けて、準備に余念がない。

昨年9月30日、中世阿波国の牛牧庄(富岡町)領主で牛岐城主だった新開実綱(1582年没)の430回忌法要が正福寺で営まれた。同協議会の会員をはじめ、多くの関係者が歴史談義に花を咲かせる中、胸の内で温めてきた「歴史資源



三好長慶武者行列まつりに参加。県内外の歴史愛好家と交流を深めた。(平成24年11月4日)

430回忌法要の様子



を生かしたまちづくりへの思いが「新開遠江守隊」を生んだのだ。世話人の松田満樹さん(68歳・富岡町)は語る。「実際に現地に足を運び、史実の一つ一つを自分たちなりに確かめながら思いを巡らせてみると、物語となる要素にあふれていることが分かります。地の利の良さや自然の豊かさに気付くことも、歴史探訪の魅力の一つ。歴史を考え、語り継ぐネットワークをつくり、一人でも多くの方にその魅力に触れていただきたいですね」。手作りのガイドマップには、市内に点在する城跡や戦国武将ゆかりの地など30カ所が選定されている。じっくりと見て回れば、軽く2日は費やすコース。地元住民ならではのガイドで旅路に一興を添える。近い将来、阿南でも武者行列もしてみたい、と夢は膨らむ一方だ。現在、会員募集中!

問「新開遠江守隊」世話人 松田満樹  
 (090-1171-1464)へ